

あすあすあまのり 元号

発行：神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ

〒221-0044 横浜市神奈川区東神奈川1-29 東部療育ビル3階
TEL/FAX 045-441-3901 URL <https://kana-chie.com>

第75号

2025年2月発行

節分の豆、今年はいくつ食べる？
毎年増える数に
子どもたちの成長が重なります。
寒さに負けず 元気に育ってほしい
大人みんなの願いです。

今回の元号号はかなーちえ講演会
「対話と共感の子育て」の内容を
掲載しました。

「元もっておもしろい」
「おもしろいが育ちの原動力」
「受け止めて意味づけて返す」
等々、講師・加藤先生から語られる
宝のようなお話が
親世代は勿論、
地域の支え手さんの心にも
滲みわたっていくようでした。

こどもまんなか社会、
こどもをひとりの人間として
人権を尊重し、
その声に耳を傾けていく大切さを
地域のみなさんと共に
これからも語り合いたい思いが
ふくらみました。

親子のたまり場 訪問

沢渡地区にお邪魔しました。

会館の入り口には折り紙で作られた季節の飾りが賑やかに配置されていて ワクワク感いっぱいです。

この日はハロウィンのおばけかぼちゃのお土産もあり、みんなで季節の行事を楽しんでいました。

ご自身もかめっ子で子育てをしてきたという支え手さんもいて「当事者同士」とも言える頼もしい存在になっています。

場が長く続いているからこそその素敵な関係ですね。



松本地区にお邪魔しました。

保育園施設内で土曜日に開催しています。ファミリーでの利用も多く、子どもの年齢も様々で、たくさんの関りを見せてくれます。利用者さんからは、「実家が遠方で手を借りるのが難しい…相談事はここに来れば、親代わりになって話を聴いてもらえます。安心できるのでありがたいです。」という声が聞かれました。異年齢の関りや、家族のような温かさが、育まれています。



子どもと歩けば おもしろい ～対話と共感の子育て～



講師:加藤繁美氏(山梨大学名誉教授/子どもの文化学校校長)

保育・幼児教育の制度・実践などを専門に長く研究、教育を続けてこられて、今も全国の保育者と実践研究会を続けていらっしゃる加藤先生。子どもの育ち、子どもの時間について語っていただきました。先生の子どもの向ける温かな視点、緩やかな語り口から、子育てって「おもしろい♪」に気づいたり、なにかヒントが見つかったという人もいました。心にゆっくりと入ってくる時間となりました。

子どもって おもしろい

生きることをサボらない♪ 意味を作る主人公!



『何だろう?』『見てみたい』『触ってみたい』
自分から外の世界と関わり、人との関わりに意味を見出し、意味を作る (Meaning making)、0歳からそれは始まっている。
1歳頃には仲間との間に、2歳には虚構(想像)世界に意味を見出す。自分のイメージをとことん出して遊ぶ。
何でも自分で実現できそうに思う3歳期。
そして4歳半～5歳になる頃、自己内対話が育っていく。
子どもの表情が変わっていく。
子どもは自分の力を使って育っていく。



2歳はイヤイヤ期?

一番楽しい時期!2歳ほど幸せに生きる時期はない。明確に自分のやりたいが見えてくる。トコトンやりたいに真っすぐな思いで進む。けれど、禁止され、別のことを言われる。思い通りにならずパニックになる。それが2歳。

面白いは2種類。

Interesting=時計を分解したり、虫を探すような知的なおもしろい
Funny=ケラケラ笑うようなおもしろい
自分が感じた『おもしろい』を、誰かに伝えたい(共感)。その思いを子どもは外世界に表し、それを誰かに受け止めてもらえた時、それが人と生きる喜びにつながっていく。

「おもしろい」が 育ちの原動力

口頭詩から 子どもを見る

感じている事、言いたい事はたくさん持っている。つぶやきが詩になる。ポキャブラリーが少ない。そこに、ズレが生じるから大人にはおもしろい♪

その言葉にどう返す?

そこが大人の責任。

説明ではなく、一緒に悩んだり、面白がってもらうことで、頭の中に生まれたこと、問いを持つことの価値を知る。自分の言葉を聴きとってもらえる喜びを知る。その経験が、人の言葉を聴く、相手の声を取り入れることへとつながっていく。

おかしいな

ひろのり (3歳)

おかあさん

どうして

そとがわは くびで

なかは のど なの?

おとうさん

もえこ (4歳)

おとうさん

あそんでくれて

ありがとう

たすかるわ

ことば せい (5歳)

ああ ぼく

日本に生まれて

よかった

外国に生まれていたら

ことばが ぜんぜん

わからなかったよ

子どもの心の形

新しい力を獲得するということは、新しい苦悩を抱え込むこと

3歳は心の臨界期。「ボクの!」「自分で!」というように大人の思いを拒絶して、自分の願いを外に

主張するが、なかなか通じないことを知る。それは大人からすれば手のかかることだが、「育ち」として捉え応援したい。

絵本「三歳からのおとな」

りいちゃん3歳。苺のケーキが良かったのに、大人の「大きいから」の一言であきらめる。でも、悲しい。お母さんはその気持ちを分かっている、受け止めてもらった。その後りいちゃんは自分のおもちゃを妹に貸してあげたんだよ、というお話。



社会的知性を育む共感

子どもの主張を受けたら・・・共感から始めよう。

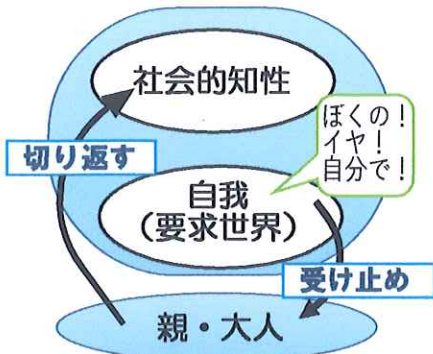
まず受け止め、その後、こうだいいいな、を伝える。

嘘の共感はしなくてもいい。でも2割くらいは受け止め

られる部分がある。いけないこと、してほしくないことは8割位。

そこに線を引いて、切り返していくのが大人の仕事。

自我と社会的知性



『受け止めて、意味づけて返す、育っていく』

それは何度も何度も繰り返し、時間をかけて形作る社会的知性への誘い。

乳児期、泣いて要求に応じてもらい安心の中で育てた「自分(自我)」。

2~3歳頃になると、覚えた言葉を使うので、他の子の行動には「ダメなんだよ」と言ったりするが、自分の中ではつながらない。

4歳過ぎ、自己内対話が始まっても、直ぐに、ずっとつながるわけではない。

揺れる自分を受け止めてもらって、子どもは社会的知性を育てる。

子どもは人の心を獲得していく力を、自分の中に持っている。

子どもの声の新時代

【子どもの権利条約 12条】

子どもは、自分の関係のあることについて

自由に自分の意見を

表す権利を持っています。

その意見は、子どもの発達に応じて、

じゅうぶん考慮されなければなりません。

子どもは未熟で守り育てる存在、という価値観から、

赤ちゃん期から子どもの声を聴いて、「一人の人間」として尊重していく、という改革を世界は進めている。

子どもの声だけ、大人の意見だけでなく、相互に聴く、対等に考える。思いが通らないこともある。なんでも好きにしてい、ではなく、対等な関係の中で意思決定のプロセスを経験し学ぶ。

子どもは問題を解決する力があり、大人が信じることで、応じられる力が育つ。自分の声を聴いてもらい、安定し、考えていく。

新しい時間を作っていく。新しい時ができていく。

1989年 国連総会、子どもの権利条約を採択
1994年 日本、条約批准



感想(抜粋)

- ★先生の軽妙な語り口、大変面白く勉強させていただきました。お話の途中、何度か涙が…。まず聞く、共感すること、忘れがちなので肝に銘じます。
- ★今まで魔の2歳児と思っていたが、2歳児という幸せ、その発想の転換がInterestingと思いました。
- ★子どものために出来る事を学べたら…と参加したら自分を見つめ直すことになりました!
- ★子育てって子どもを信じる事だと、幼稚園の先生に言われたことを思い出しました。
- ★保育者です。会場に親子がたくさんいらっしやるのが、印象的でした。こうして繁美先生のお話が、多くの大人に伝わっていったら、子どもの面白いを、大人も一緒に面白いがる嬉しい社会になるな~と思います。
- ★子育て中、「自分を犠牲にして」子どものためと一生懸命やってきた、と自負している自分と、子から見返りを求めている自分との葛藤を、自分が抱えていることに気がつきました。
- ★つらい子育てを楽しい子育てにするヒントがつかったお話でした。子どものおもしろいに寄り添う、親だけでなく子どもを目にした大人が少しでも意識したら国が、世界が変わる大きな話だと思いました。

みなさんの声

Q&A

Q1「きょうだい育て。上の子と下の子それぞれの気持ちへの寄り添いは?」

A 親がそれぞれの気持ちを聴き、寄り添うのは無理、大変!上の子にも下の子にもまっとうな思いがあっているいろいろなことが起こるのでから。

家族間で互いの思いを語り合う場を作るのはどうでしょう。子どもについてだけでなく、大人のことも子どもに相談して家族で語り合うのは、チャレンジのしがいのあることと思います。

Q2「中学生と親の間のアレコレ。どうしたら?」

A これは難しいですね!大人は子どもに対し責任やプライドを持っています。日本では親が自分を犠牲にして子育てをし、その犠牲に対する見返りを求めてしまいがちです。子どもの為だけではないサポートも大切だと思います。「私は私」「親でいることだけが私ではない」「自分の人生を持ちましょう」でしょうか。

かなさんぽ

赤ちゃん連れで行ける、遊べる、
身近なご近所の「場」を
みんなで歩いて地域再発見！

11月、かなさんぽ片倉地区を開催しました。

ブルーライン片倉町駅に集合し、かめっ子をはじめとした地域の居場所やハマハグ加盟店、畑に設置されている野菜販売など、助産師さん、地域の方と一緒に散策しました。

片倉うさぎ山公園は「かめっ子」「プレイパーク」開催日でもあり、支え手さんたちがふるまうお味噌汁をみんなでいただきました。マタニティや、父の参加もあり、新たに地域を知るきっかけになりました。

お知らせください

来年度の予定はお決まりですか？
かめっ子チラシは、多くの親子さんに
手に取ってもらえるように、
かな一ちえや区役所に
配架しています。
来年度の年間予定、チラシが
できましたら、かな一ちえまで
お知らせください。
また、開催曜日や時間の変更等が
ございましたら、ご連絡ください。

祝！かめっ子 25 周年



すくすくかめっ子事業が始まり、
もうすぐ四半世紀！！
親子に寄り添い、地域の子育てを
支えてきた皆さまと、
かめっ子の歩み、これからについて
熱いトークをフォーラム形式で
R8 年1月に開催予定です。
ぜひみなでお祝いしましょう。
詳しくはチラシでお知らせします。

【編集後記】

令和6年度も、約10か所のかめっ子さんを
訪問させていただきました
どのかめっ子さんにも、その場その場の
温かい空気が流れ、
世代を超えた、人と人とのふれあいの
風景があります
訪問する度に、胸が熱くなります
そんな大切なひとコマを、ニュースにまとめ
「親がめ」のホームページ、
かめっ子訪問ニュースに掲載しています
ぜひぜひ♡ご覧くださいませ〜

